

主催：脱原発ネットワーク茨城

“原発と活断層共存の怪”を最も深く知る、気鋭のサイエンスライター

添田孝史講演会



産総研活断層データベースより
(原発位置を加筆)



伊方3号核燃料装填開始
地震影響懸念
来月26日再稼働へ
東京新聞 6月25日



地震と原発

本年4月に熊本から発生した連続地震は、震源を大分、熊本南西へと移動しながら活動の終息を見せていません。この状況で、なぜ政府・電力は川内原発の運転を継続し、伊方原発の再稼働を強行するのでしょうか。背景には「電力業界が活断層をなるべく見つけないようにし、地震動を低く見積もってきた歴史」があります。この分野で地道な調査を続けてきたサイエンスライター・添田孝史さんのお話を聞きます。

【添田孝史さん プロフィール】

サイエンスライター。大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程修了。1990年朝日新聞入社。科学医療分野を担当。97年から原発と地震についての取材を続ける。2011年退社。以降フリーランス。福島原発事故の国会事故調査委員会で協力調査員として津波分野の調査を担当した。最新著作「原発と大津波・警告を葬った人々」(岩波新書)



日時：2016年7月24日(日曜日)

13:30開演～15:30終了 (開場は開演の30分前)

会場：つくば市竹園交流センター大会議室 茨城県つくば市竹園 3-19-2

資料代：500円(当日)

ご予約は下記へお問い合わせください

お問合せ／脱原発ネットワーク茨城 090-5548-3078(小川) 090-9299-3783(江口) 070-5079-6308(永井)
メールお問合せ nonukes.ibaraki@gmail.com HP(blog) : <http://nonukes-ibaraki.seesaa.net/>